

# 連載 ] 最近のKAIR (神山アーティスト・イン・レジデンス)



## 「Okuri」(おくり)修繕完了しました!

KAIR2014招聘作家スチュワート・フロスト(イギリス出身・ ノルウェー在住)による作品、「Okuri」の修繕がこの度完了いた

これは、ニコライさんこと河野公雄氏が中心となって導いて くださった修繕プロジェクトの活動によるもので、2018年12月 の第1次修復から最終調整までの約2年のあいだ、少しずつ 時間をかけて丁寧に手が入れられました。この度、スチュワート





「作家について ・ https://www.in-kamiyama.jp/art/kair/artist/stuartfrost

## Okuriの修繕について

「Okuri」は、自然と文化、環境が、互いに影響することで生まれる 「対話」について表現した作品です。芸術の定義に含まれるのは、 くださったことで作品は完成しました。この制作過程を通して、作品 は共に成し遂げる行為そのものであった、と捉えることができるの です。これを踏まえて、ニコライさんが主導となって、時間と手間の したことも、作品が地域の一部になるための重要な選択だったかも しれません。「Okuri」という作品を通して、ランドアートは人と 強調できたなら、嬉しく思います。最後に、丁寧な手作業で修繕に 献身的に取り組んでくださったニコライさんに、心より感謝申し上げ ます。「Okuri」の命をつないでくださってありがとうございます。

スチュワートより

# 連載2 ほんのひろば

# ほんのひろば、引っ越しました!



やつを楽しみながら本とあなたの時間を過ごしていただけます。 これまでよりも広くて明るい教室からは窓一面の緑を見ることが でき、すぐ近くの鮎喰川と広いグラウンドでは外遊びもできる環境 です。最初は週末のみの開館ですが、いずれ平日も開けられる よう頑張ります。なお5月に入ってからはコロナウイルス対策 として、利用人数を制限したり、コーヒーとおやつの販売を お休みしたりしています。

公式サイトを確認のうえお越しください。

https://coffee-and-honnohiroba.mystrikingly.com/

# 連載3 GVメンバーリレー

### 中山竜二(NPOグリーンバレー理事長、観光担当)

神山に越してきてはや12年。今でも このまちを「こんなええとこ、ないん ちゃうん(ないんじゃないかな)」と 思っています。そんなボクの夏のおす すめは「カヤックで川下り」。

今は5月の中頃、まちの匂いは、藤の 花の甘くて華やかな香りから、すだち の花の爽やかな香りにかわります。田 んぼに水が入り、道路にトラクターの 足跡をみるのもこの時期です。



もうすぐ雨の季節。ひと雨ごとに神山を流れる鮎喰川の水かさが 上がり、いよいよカヤックで川下りのシーズン到来です。神領小野 のあたりから川に入り、阿川を過ぎて高瀬まで、3時間あまりの船 旅。川面からの景色を 独り占めしながら下っていきます。

途中、技術と勇気が必要な、いわゆる難所もありますが、上手く クリアしても川に落ちても、爽快な気分になれますよ。やって みたい方はお声かけくださいね、いっしょに楽しみましょう(^^)

## 「天にのぼる川」 撮影:生津勝隆

夏至の頃、宇度木(阿野)から北東、吉野川を越え 空港方面を遠望すると、朝陽は気延山の方角から 登り、谷を遡って背後の焼山寺山に注ぐ。正面小山 は広野富士・須賀山。神山の山々が連なる。





### リーンバレーの活動は、皆様からのご支援によって支えられています。

神山のサポートについて グリーンパレーの活動は、皆様からのご支 私達の活動趣旨にご賛同いただき、暖かい 詳しくは以下のページをご覧ください。 https://www.in-kamiyama.jp/donatic 私達の活動趣旨にご賛同いただき、暖かいご支援をぜひお願いいたします。

認定特定非営利活動法人グリーンバレー MAIL: greenvalley@in-kamiyama.jp 〒771-3310 徳島県名西郡神山町神領字中津132



# 認定NPOグリーンバレーに携わる人たちの想いを伝えるニュースペーパー「グリーンバレージャーナル」 GREENVALLEY JOURNAL Jun 2021 vol.14 持続可能なライフスタイルを求めて

温故知新で実践する「森づくり」

# 持続可能なライフスタイルを求めて 温故知新で実践する「森づくり」

~叡智を未来につないでゆきたい~

神山を象徴する活動のひとつに「認定NPO法人グリーンバレー(GV)」が1999年にスタートした国際的アート・プロジェクト「アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)」があります。 そのKAIR参加アーティストたちの多くの作品が設置されている大粟山を地域住民が手入れする取り組みとして始まったのが「森づくり」(GVの環境保全を通じたまちづくり事業)。

ニコライさん(河野公雄氏)が旗振り役となり、自然の環境や景観を守り居心地のいい里山空間を生み出す森づくり活動として、住民の皆さんと一緒に続けています。

今号は、少し違う角度から森づくりに挑む齊藤 郁子にフォーカスします。GV理事齊藤が「里山で生きることの持続性」をテーマに進める森づくりとは? ※「KAIR」や「森づくり」はGVジャーナルでも特集しています。ジャーナルのバックナンバーはイン神山をご覧ください。

# 小さい頃から、 山と滝がある場所がhomeだった



私の実家(大阪府箕面市)の近くには山があり、お猿さんがいる 滝がある自然豊かな環境で育ちました。駅前には観光馬車が走っ ていて、幼稚園や小学校の帰りに馬をみかけると興奮したもの でした。山の中を探検し、秘密基地をつくっては、キティちゃんの自 転車に折り紙で作ったたてがみをつけ、馬に見立てて基地の周囲 の見回りをしていました。基地の地図を制作しては小瓶に詰めて川 に流して、誰かが訪ねてくるのを待つという遊びに夢中でした。

# 大人になったら、 どんどん狭いキューブの中へ

いざ大人になってみると、"山"という、曲面で奥行きのある空間 での活動は激減し、四角い空間での活動が多くなってなって いきました。そして遠くからやって来るエネルギーに頼り、何かを 生み出すという創造的な行動は減り、すでにできあがった 選択肢の中からやるべきことを選ぶことで日々が構成されて いきました。お米も野菜も作るのではなく、いくつかある選択肢 から選んで購入し、週末は友達やガイドブックがおすすめして くれる場所へ旅にでて、おすすめの宿に泊まるなど。大都市圏 での暮らしは刺激的で楽しかったのですが、次第に、もっと 自分で作り上げることができる持続可能で心地よい新しい ライフスタイルへ移行したいなと考え始めました。

# グリーンバレーとの出会い



二ホンミツバチの蜜のとり方を教えてもらっています。

そんな折、アウトドア仲間が世界一周旅行の後、神山を 終の棲家として選んだというので、彼らを訪ねて、2003年に はじめて神山を訪れました。彼らの美しい暮らし方と、地元の方 の強烈なキャラクターが印象に残り、のちに何度もお邪魔する お気に入りの場所となっていきました。数年後、たしか2006年 頃に大南さん(GV前理事長の大南信也、以下大南さん)と 話す機会を得ました。「こんな人いるんだな、かっこいいなー わくわくするなー」と思ったこと、「バーニングマンをいつか 神山でやろう!」なんて話をしたと記憶しています。

大南さんをはじめとするグリーンバレーのみなさんの描く デザインには、ゆくゆくは神山が教育へ向かうことも、"世界の 神山"への流れもすでに含まれていて、それを何十年もかけて 着実にひとつひとつ形に変えてゆくのだな、これは100年、 200年先の神山の未来を考えての活動なのだなと、ただただ 感動したのです。そして今も感動しつづけています。すがすがしく 潔い雰囲気に本気を感じました。

# 神山への移住を決心。 時間をつくる勇気



サウナ予定地の杉を切って、割って、運び出しているところ。

それでも私は大きなシステムの一部であり続け、大都会の 真ん中で変わらず暮らす日々を過ごしていました。そんな折に 3.11が起こり、社会不安が広がる中、社会を批判するのでは なく、小さくても持続可能なモデルを作ろうと、一念発起、 以前から気になっていた神山への移住を決めました。

グリーンバレーに何から何までお世話になり、元は造り酒屋で あった家屋と山林と軽トラックを購入し、一年半にわたる改装 が始まりました。すばらしいチームに恵まれ、飲食店をひらき、 始めの数年は東京のモードで忙しく働いていたのですが、 次第にこの町に伝わる暮らしの知恵や技術を学ぼうと、 営業日数を徐々に減らし、最終的には年間160日夜だけ営業に 落ち着きました。そうやって"時間を取り戻し"てみると、いろんな 事が見えはじめたのです。思考も深くなり、神山の人々からいろ んなことを「教えてもらう」毎日が始まりました。

# 山が用意してくれる ベーシックインカム

山のミネラルは川に流れ込み、海 まで届きます。戦後大量に植林され た杉は、すでにちょうどよい大きさに 成長しており、たっぷりと木を使った 贅沢な家が建てられるでしょう。 湧き水を引けば田畑も潤い、おいしい 飲料水も確保できます。焚き木を 集めれば、給湯、暖房、調理が可能 となります。こんな風に止めどなく えてくれます。



恵みを与えてくれる山に囲まれた神山の暮らしは、ベーシックインカム が付随しているのも同然。だから自然に、自分が人生で大切だと思う ことに安心して集中でき、力を発揮できるのだなと、神山人の なりたちを少しずつ理解しはじめました。



# 神山の人は足元がしっかりしていて、 視野が広い

移住したての頃、たまたま紐が必要になり、車で往復1時間余りかけ て徳島市内の100円ショップで買ってきたところ、、近所のおばちゃん がそれを見て、「おまはん(あなた)の庭にシュロの木があるやろ。 好きな太さのロープが好きな長さで作れるよ。自然に還るし、大事に つこたら(使えば)100年もつんよ。」と言って作り方を丁寧に教えてくれた のです。この時、神山の人の暮らしは"足元しっかりさん"だな、と 思ったのです。それからおばちゃんは次のように言ったのです。 「100円ショップの紐は、どこかの国の誰かさんが安く搾取されている かもしれんしなぁ。」安い価格に潜んでいる、遠くの誰かさんの暮らしに まで思いを馳せられているなんて。とても遠くまで見えているな、自分も 常にこうありたいなと。

# 自分が出しているごみ、 自分が汚した水の行方

移住した当時はまだ自治体による生ごみ回収が始まっておらず、 コンポストを使って生ごみを土に還すことを学ぶことができました。 水も各家庭が浄化槽を持っていて、好気性の菌と嫌気性の菌の力を 借りて、水を浄化して川に戻していることを知りました。ある日、自分が 出したごみがどうなっていくのかを、役場のバスにのって見学しに行く 機会を得ました。そこでは多くのごみは粉砕され、美しい神山の山中に 埋められていました。埋められるスペースはあと14年分しかないとの ことで、その後の処理場はきまっていないそうです。

この経験は神山生活の一つのハイライトとなりました。すべてのものは 循環するのですが、人間だけがその繋がりを複雑にしているのだなと 痛感する大変貴重な経験となりました。たとえば運営するレストランの メインディッシュが油を使うシュニッツェルの日は浄化槽の中の菌は どうなるかな....そんなことを考えて、混み合うことが予想 されるときには自然への負荷が小さなメニューを選びたいと考える ようになりました。



特殊伐採ができる山師を講師に招いてのワークショップ。

# 神山の人から学ぶ日々

いま、気分的には7歳児ぐらいの感じで日々過ごさせてもらっています。 目の前にはいろんな選択ボタンが無限にあって、ポチポチ押せる、 そういうイメージです。目の前には無数の道が広がっていて、探検に でかける感じです。

私は大都会でいち消費者としての生活が長かったためか、無駄な 動きが多かったり、基本的な道具の使い方が未熟であったり、洞察力 が浅かったりするのです。でも、神山はいろんなことを根気強く、そして 暖かく、愛情たっぷりに、面白おかしく教えてくれる先生たちで溢れて います。そこで教わる、生きていく上での必須技術を身につけていれば、 様々な場面で応用がききますし、なにより想像力が豊かになると 思っています。

# 暗かった森に、光と風が入ると気持ちいい

大好きな山が手入れされずに荒れている現状を見ると心苦しくなり、 移住して3年目から、恐る恐るチェーンソーを握りしめて山林を間伐し



かつて生き物のいなかった山に、

現れ、光と風が入ってきます。 その最初の瞬間を今でも鮮明に 覚えています。間伐し始めると すぐに問題が浮上しました。作業 道がない場所では機材が入らず 木材が搬出できないのです。 作業道をつくったり、木々を全伐

昆み合った暗い杉林の上に空が

したりすると、自然環境を大きく変えてしまうでしょう。 環境へのインパクトをできるかぎり少なく抑える方法は ないものかと考え始めました。

そこで、搬出できない木材はその場で玉切りにし、背負子で 運び出すことにしました。家に導入した薪ボイラーの燃料に 使用したり、山の中にDIYで森のサウナを建てて、そこで 使うことにもしました。サウナの灰を間伐した山に撒き続けて いると、鳥が運んできた種や眠っていた種が芽吹き、いろんな 植物が生えるようになってきました。小さい頃に読んだ 「花咲かじいさん」のお話を思い出しました。



間伐材を燃やして石を温め、沢の水でロウリュします。

# 衣食住の"住"を もっとよくしたい

日本人の住環境はもっと良く なってもいいのかなと思って います。せっかく伐採適齢期 を迎えた杉の木が身近に あるのですから、もっと活用し 暖かく、涼しく、広々とした 住まいを作りたいです。自分 たちで山を手入れし、木木 搬出してゆっくりと建てたら どうかなと思っています。家をも、山に人が集う。



購入するために一生懸命「お金を稼ぐ」のではなく、家をつくる ために一生懸命「森を手入れ」して、無理せず少しずつ建てて ゆく。家は完成させるのでなく、一生育て続ける、というふうに なればいいなあと思っています。そうやってよい森を次世代に 受け継いでゆきたいです。昨今のアウトドアブームやサウナブーム が森づくりへ結びついていったらいいなあと思っています。

# 持続可能なあたらしいライフスタイル

昨年度から、岩手県の遠野市の馬搬振興会から農耕馬を お借りして、田畑を馬で耕したり、切った木材を山から引っ張り 出す技術を学んでいます。もともと神山でも50年ほど前までは、



ガソリンと肥料に頼るのではなく、草と馬糞で小さな循環を生む。

馬搬で木を出していたため、地元の皆さんが懐かしんでもくれ、 思い出話を聞かせてくださいます。馬で田んぼを耕し始めて 驚きました。これほど多くの様々な生き物が田んぼに住んで いるとは想像していなかったのです。田んぼの中では多種多様 な生き物が互いにバランスを取り合っていて、実に理に かなっているのです。

自然のデザインに感動する毎日です。野生のカモも飛んできて、 草取りを手伝ってくれ、あぜ道に巣をつくり卵を産みました。 田んぼに行くことが日々の楽しみとなる楽しいお米づくりとなり ました。農耕馬は、「ううううー」と重低音で唸りながら馬糞を してくれるんですが、これがまたよい堆肥になります。農業には、 燃料や堆肥がたくさん必要ですが、こうやって馬と暮らすと、 燃料と堆肥をわざわざ外からもってこなくても、その敷地内の 循環の中で得ることができます。鶏を飼い、卵も自給しはじめま した。山からの湧き水を引く技術も教えてもらいました。

神山での生活はまるで学校に通っているようです。毎日登校 するのが楽しいんです。親身になって私と一緒に考えてくれる 先生方、今後ともよろしくお願いいたします。

そして、この御礼に、神山の未来に恩を返してゆきたいと 思っています。



きれいな水に囲まれた暮らし